

# 学習指導案の形式（例） 中学校美術科

## 第〇学年〇組 美術科 学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇教室 指導者 〇〇 〇〇

1 題材名 〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 教材名 「〇〇〇〇〇〇〇」 （出版社名、学年） ←※必要な場合

- ◇活動のねらいや内容、美術科の視点等を考慮し、名称を設定する。
- ◇生徒が親しみやユーモアを感じ、意欲的に活動に取り組めるような名称を工夫する。

### 2 題材の目標

- (1) 「知識及び技能」に関する目標（例：～できる。～分かる。～表す。）
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～できる。～考える。～広げる。）
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：～しようとする。）

- ◇学習指導要領の目標及び内容（指導事項）を踏まえて設定する。
- ◇(1)の「知識」と「技能」、(2)の「発想や構想」と「鑑賞」をまとめて記述してもよいが、ねらいを明確にするために、(1)を「・」の箇条書きで「知識」と「技能」に分けたり、(2)を同じく「発想や構想」と「鑑賞」に分けたりして記述してもよい。
- ◇生徒の立場で書く。

### 3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・例：～している。	・例：～している。	・例：～しようとしている。

- ◇「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準は、当該題材で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項の文末を「～している。」として作成する。
- ◇「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、観点別に学習評価するものだけを、題材に即して「表現する活動」や「鑑賞する活動」を具体的に表記する。例えば第1学年の場合「美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う」は個人内評価のため、題材の目標に入れてもよいが観点別評価には入れないようにする。文末を「～しようとしている」として作成する。
- ◇評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」、「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価」等を参考に適切に設定する。

### 4 指導と評価の計画（全〇時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準及び評価方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に	
			知識・技能	発想や構想 鑑賞	取り組む態度	
一	1	○例：～について考える。工夫して表す。	○		○	[観点] (方法) ○例：～している。 ～しようとしている。
	2	◇ねらいを明確にして書く。 ◇生徒の立場で書く。	◇「知識」と「技能」、「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ一つの枠で示してもよい。			◇「3 題材の評価規準」の観点をバランスよく位置付ける。

### 5 指導上の立場

- 題材観
- 生徒観
- 指導観
- 研究主題との関連

◇指導者の立場で書く。

- ◇題材観…本題材で身に付けさせたい資質・能力、題材の内容や題材を取り上げる意義、題材・教材と生徒の関係等を書く。
- ◇生徒観…本題材に関する興味・関心、資質・能力の状況、既習事項の定着度等について書く。本題材において目指す生徒の姿等について書く。
- ◇指導観…指導・支援の重点、学習形態、その他の配慮事項等、生徒のよさや可能性を生かすような指導方法の工夫等を書く。
- ◇研究主題との関連…研究に  
 ◇「2 題材の目標」「4 指導と評価の計画」との整合を図る。  
 ◇本時の評価規準との整合を図る。  
 ◇生徒の立場で書く。

(1) 本時の目標  
例：～することができる。～しようとする。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1 ◇生徒の立場で書く。	○ ◇指導者の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
2 (1) ◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。	○ めあて ◇生徒が、何をどのように学ぶのかを明確にして本時のめあてを書く。	◇本時の目標と整合した評価規準を具体的に書く。抽象的ではなく、実際可能なレベルで具体化する。
(2) 例：～について話し合う。 ◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。授業展開は、「岡山型学習指導（授業5）」を参考にする。	○例：～することで、～できるようにする。 ◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。 ・生徒が主体的に学習を進めるための手だて ・生徒が対話的に学習を進めるための手だて ・生徒が学習を深めるための手だて ・生徒一人一人の学習状況に応じた手だて ・予想される生徒の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物等 ◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 ◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手だてを書く。	◇評価の場面は1、2箇所に絞る。 ◇評価規準に合わせて、評価の観点を明記する。 ◇評価方法を具体的に書く。
3	○	○例：～している。 [評価の観点] (評価方法)
4	○ まとめ ◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時のめあてと対応したまとめを書く。	◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノート、ワークシートの記述 ・アイデアスケッチ ・作品 等
5	○ ◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。	

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿 例：～している。

◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。